

第9回かながわ感動介護大賞 受賞作品紹介



「コロナ禍の中の母との別れ」

末包 玲奈 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人力カメリア会 特別養護老人ホーム カメリア藤沢SST

2021年1月に、88才の母はお世話になった特養の自室で永遠の眠りにつきました。その1年前から世界を変えてしまったコロナ禍の中、自転車でも行ける近さの施設に居るのに、感染予防で面会出来ない日が続いていました。しかし、「タブレットでお話し出来るようにしました!」「外のテラスと窓サッシ越しに面会出来るようにしました!」と次々と方策を考えて下さり、認知症がある母ですが、私に手をゆらゆらと振ってくれる様子を直に目にすることが出来ました。そして、ウイルスを持ち込まないために、職員の皆様方は自己の生活も犠牲にして気を付けていただいていると聞いていた中、いよいよ母の命の灯が、となった時、「マスク、フェイスガード、キャップ、消毒などしてもらいますが、毎日でもお部屋に来ていただいて構いませんよ。」と言って下さり、子、孫皆で訪れ、母のそばに居られる日々の機会を与えて下さいました。もしよく耳にするニュースのように、骨になるまで会えなかつた、となっていたら、と思うとご配慮に感謝の気持ちで一杯になりました。

亡くなった晩、勤務が終わってとっくに帰宅なさっていると思っていたスタッフさんが、まだ残って送り出してくれ、そして、この1年を中心とした母の写真やビデオを編集したCDをその場で作って渡してくれました。会えなかった時期の母の笑顔がそこには溢れていました。

「私も、ここにしてね。」「うん、俺もな。」と夫婦で話しながら、今も母を想い出しています。

